

# 1. 水道ビジョン改訂にあたって

## 1-1 改訂の趣旨

中津市（以下、「本市」と称します）の上水道は、大正 15 年 9 月に創設され、これまでに複数の拡張事業を重ねており、現在では平成 19 年 2 月に認可を取得した「第 5 次拡張事業第 2 回変更（平成 28 年度目標、計画給水人口 67,800 人、計画 1 日最大給水量 34,900m<sup>3</sup>/日）」を推進しています。また、平成 21 年 4 月には「中津市水道ビジョン」を策定し、『なかつの山を育て、水を守り、未来の子供たちへつなぐ』という基本理念のもと、4 つの施策目標と 18 の具体的な施策を示し、各施策に取り組んでいます。

近年、平成 29 年 4 月には、同市内にある 17 簡易水道事業（平成 27 年度末現在、計画給水人口 5,770 人、計画 1 日最大給水量 2,348m<sup>3</sup>/日）の組合営である 1 事業を除く公営 16 事業を上水道へ経営統合することにより、水道事業を持続するための経営基盤を強化したところです。

ただし、本市水道が抱える現状の大きな問題の一つとして、水道施設の著しい老朽化があげられます。特に、昭和 3 年 4 月に供給を開始した宮永浄水場は、老朽化に加えて、山国川の伏流水を取水する集水埋管が長期にわたる使用と河川状況の変化により、健全性が失われ、所定の取水量を確保できない状況です。また、旧簡易水道については、老朽化の進行に加え、一部の水源で水質が悪化しており、浄水施設の再検討が必要な状況です。

これらの他に、配水管の老朽化が進んでいるため、事故などへの予防保全性を確保するためには、その更新計画が必要であることや、平成 9 年に取得した平成大堰の水利権（10,000 m<sup>3</sup>/日）を使用するための施設が未整備であるなど、今後も水道水を安定的に給水するには、これら基幹施設の再構築や配水管の更新に関する計画などを検討することが必要です。

また、総務省では、平成 28 年 1 月に各種の公営企業に対し、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」を平成 32 年度までに策定することを要請しており、これに対する対応も必要となっています。

以上から、今後も安定的かつ持続的な水道事業を展開するために、「中津市水道ビジョン」を改訂することとしました。

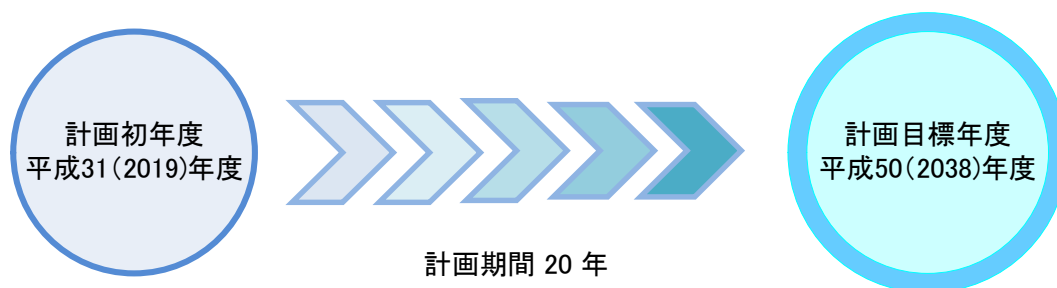


※出典：厚生労働省）新水道ビジョン 平成 25 年 3 月

## 1-2 計画期間と目標年次

「中津市水道ビジョン」（以下、「本ビジョン」と称する）では、現状評価、課題の抽出を行った上で、目指すべき将来像に向けた具体的な取り組み施策を検討し、それらを明らかにします。

計画期間は計画初年度を平成 31（2019）年度として、計画目標年度を平成 50（2038）年度と設定し、計画期間を 20 年間としています。



## 1-3 計画の位置づけ

本ビジョンは、平成 21（2009）年度に策定した「中津市水道ビジョン」をもとに、本市の全体計画である「なかつ安心・元気・未来プラン 2017（第五次中津市総合計画）」及び中津市公共施設等総合管理計画である「中津市公共施設管理プラン」における方針や施策と整合をとりつつ、現状評価を踏まえた上で、新たに基本理念、理想像、具体的施策を検討したものです。これらに加えて、財政状況や水道利用者のニーズを把握することで、本市独自の水道事業における計画としています。

また、本ビジョンに基づき、中長期の経営の基本計画となる「中津市水道事業経営戦略」を策定します。

